

【小学生の部】アクション・レポート部門 優秀賞

「アメリカで見つけた取り組み ～熱地球から命を守るために～」

Ridges Elementary School, Portland Japanese School 5年 ^{いまで} ^{いたる} 今出 至

僕は、二年前に、アメリカのオレゴン州に引っ越してきました。そこで、環境意識が高い人が多いことに、驚きました。肉を食べない人がよく見られ、オレゴンでは、三分の二の家にクーラーがついていないと聞いたこともあります。また、シャンプーに、プラスチックボトルでなく、紙に入った固形のものを使っている人も多いです。スーパーで売っている飲み物は、ビンが多く、買うときに一本につき一セント余分に支払い、ビンをリサイクルするとその分の代金が返ってきます。また、一番驚いたのは、Buy Nothingという取り組みです。地域のグループで、いらないものを譲り合い、欲しいものがあれば、そこで呼びかけると、譲ってもらえることが多いです。

日本にいる時には、こういったことは、身近では聞いたことがありませんでした。こういったことを調べるうちに興味が出てきて、オンライン講義を受けてみたり、自分で調べたりしました。

今、僕も、できることを少しずつ取り組んでいます。生ごみは、家のコンポストにいれて腐葉土を作り、その土を使って、野菜を育てています。ビンのリサイクルは、僕の仕事で、100本以上のビンがたまればリサイクルに行き、爽快な気分になります。欲しいものは、まず Buy Nothing で探し、いらなくなったものは必ず誰かに引き取ってもらいます。最近、この取り組みが、僕の出身の大阪でも始まったと聞き、誇らしく思いました。僕の家では、食べ物を残してはいけない決まりがあります。どうしても苦手なものは、ホームレスの人に譲ったり、フードバンクに寄付したりして、ごみに捨てることはありません。家では、味噌や納豆、梅干しをつくり、空輸されたものは、できるだけ買いません。

なぜ僕がこういう取り組みをするかという、実際に、地球の異常を感じているからです。毎年山火事が起こり、空が煙に覆われ、太陽が届かず不気味なオレンジ色の世界に変わり、その煙のため、数日家の外に出られません。僕が訪れたことがある美しい景色も燃えてしまい、大好きな動物が死んでしまいました。また、今年、千年に一度と言われる、ヒートドーム現象で、47度を記録しました。もう、温暖化ではなく、熱地球になっていることに気づかなければなりません。コロナが落ち着いたら日本に行き、日本の小学校で発表したいです。僕は、これらの取り組みを、しなくてはならないからしているのではなく、みんなの命のために、やりたくてやっているのです。

